

# 少子化について ～原因編～

## ■今日的な少子化の原因の始まり

いずれの問題も原因が一つだけということはありません。むしろ、複雑な問題になればなるほど多くの原因が絡み合っています。

今日的な少子化の原因にもより複雑に絡み合った原点と言えるものがあるはず。確かに少子化の最大の原因は「未婚化・晩婚化・晩産化」であるわけですが、さらにその原因を生み出した要因として、少なくとも次の4つをあげることができると思います。

一つ目は、日本の高い有配偶者出生率です。日本では結婚してはじめて出産するというのが社会通念となっています。

二つ目は、女性の妊娠・出産する能力、いわゆる妊孕力にんごうりきです。この年齢とともに下がっていく妊孕力は20歳から40歳くらいまでが高いとされています。ゆえに、晩婚化が進めば進むほど産むことのできる子どもの数は少なくなります。

三つ目は、「二子規範」です。高度経済成長期以降、人口抑制を目的に一夫婦に子ども2人が最適とする二子規範が国策として進められてきました。4人核家族が標準であるという考え方です。

## ■働く女性が多い国ほど出生率が高い

かつては少子化の原因と女性の社会進出を重ね合わせて論じられる時代もありました。しかし、当時の考え方は今の少

子化問題にはまったく当てはまりません。むしろ現在は、出産期の高い女性がたくさん働いている国ほど出生率が高いことがわかっています。したがって、今では女性の出産によって失われる機会費用を抑えることの方がよほど効果的だということが通説となっています。

## ■労働における世代効果

労働における世代効果とは、「若者が働きだしたときの雇用情勢が、後の就業状況や賃金に持続的に影響を及ぼす」というものです。この世代効果が注目されるようになったのは、就職氷河期の若者たちの漂流実態が明らかになってきてからです。

かつて、バブル崩壊後の就職氷河期のとき、正規雇用には就けないまま学校を卒業していった若者がたくさんいました。日本の雇用システムは「新卒一括採用」です。学校卒業と同時に就職するということは、新卒でなければ春の人事採用の対象にならないことを意味します。

実際、新卒時に正社員として就職できなかった若者は、以後なかなか条件のよい働き口を見つけることができず、多くが不安定な非正規や派遣に流れていきました。

四つ目の要因はこの就職氷河期です。

## ■ロスジェネレーション世代

今、ドラマ「半沢直樹」が大人気です。

原作本「ロスジェネの逆襲」は就職氷河期の若者たちの奮闘を期待する内容でもありません。

未婚・非婚・晩婚を言われているのは、今の30代後半から40代後半までの若者ロスジェネ世代、就職氷河期に漂流した若者たちです。考えてみてください。本来、このロスジェネ世代の若者たちは、今、結婚をし、出産をしているべき年代の人たちです。特に40代の人たちは団塊の世代の子どもたちであり、第3次ベビーブームを期待されていた人たちでもあります。

この漂流する若者たちの結婚・出産に対するアンケート結果があります。当然のことながら、彼らのほとんどが結婚・出産を強く望んでいます。今日的な少子化の背景にはとても根深いものが横たわっているのです。

今回は、市の少子化対策とその取り組みについて、その一端をお話しします。



にかほ市長  
市川雄次

